

成績概要書(2008年1月作成)

研究課題：メロンえそ斑点病及びつる割病（レース1, 2y）抵抗性台木新品種候補「空知台交6号」
（「メロンえそ斑点病の総合防除対策」、「メロン土壌病害抵抗性台木新品種の育成」）

担当部署：花・野菜技術センター 研究部 野菜科

予算区分：道費

研究期間：2003～2007年度(平成15～19年度)

1. 特性一覧表

系統名	空知台交6号(F ₁)		交配組合せ		「HM-5」(種子親)×「HM-4」(花粉親)	
特性	長所 1.えそ斑点病に抵抗性を有し、つる割病(レース1,2y)に標準品種「どうだい4号」より強い抵抗性を有する。 2.接ぎ木作業性は標準品種「どうだい4号」と同等、比較品種より徒長しづらく優れる。				短所 1.低温伸長性がやや劣る。	
普及見込み面積	80ha					
調査場所・作型	花・野菜技術センター(育成場) 無加温半促成(穂木：サッポロキングER)				地域適応性検定現地(6箇所) 無加温半促成(穂木：農家慣行)	
調査年次	平成18～19年				平成18～19年	
品種・系統名	空知台交6号	どうだい4号 ¹ (標準品種)	ダブルガード ¹ (比較品種)	ワンツーシャット ¹ (比較品種)	空知台交6号	どうだい4号 (標準品種)
項目						
接ぎ木時胚軸長(mm)	31	32	38	46	49	47
接ぎ木時胚軸径(mm)	1.9	1.9	1.9	2.0	2.5	2.6
両性花開花始(月/日)	5/27	5/27	5/27	5/27	6/5	6/5
着果率(%)	97.9	96.8	96.6	94.9	98.5	99.1
成熟日数(日)	44	44	44	44	54	54
着果期つる長(cm)	215	218	209	218	—	—
着果期葉数(枚)	26	25	24	25	—	—
着果期草勢 ²	3.0	3.0	2.5	3.0	2.6	3.0
収穫期草勢 ²	2.5	3.0	1.5	2.5	2.9	3.0
ネット盛上 ²	2.0	2.1	2.0	2.0	3.0	3.0
Brix(%)	13.0	12.7	12.3	12.8	14.6	14.7
赤肉臭強さ ²	1.5	1.5	1.5	2.2	—	—
食味 ²	3.7	3.5	3.1	3.2	3.1	3.0
平均一果重(g)	1987	2080	1852	2096	1778	1735
裂果率(%)	0	1.6	0	4.2	0	0
良果収量(kg/a)	361	372	336	373	341	286
良果収量(標準品種対比)	97	100	90	100	119	100
つる割病(レース0)抵抗性	強	強	強	強	—	—
つる割病(レース2)抵抗性	強	強	強	強	—	—

¹「どうだい4号」は道育成、「ダブルガード」、「ワンツーシャット」は民間育成のえそ斑点病及びつる割病(レース1, 2y)抵抗性台木品種、

²1(弱、不良)–5(強、良)

接種検定によるえそ斑点病抵抗性

品種 ・系統名 項目	空知台 交6号	どうだ い4号	どうだ い2号
発病株率(%)	0	0	100
抵抗性	有	有	無

*調査年次：平成19年

接種検定によるつる割病(レース1,2y)抵抗性(試験3回の平均)

品種 ・系統名 項目	空知台 交6号	どうだ い4号	金剛1 号	ダブル ガード	ワンツー シャット	どうだ い2号
発病度 ¹	44.3	75.0	100	35.9	46.4	57.2
枯死株率(%)	20.9	56.3	100	16.7	18.8	37.2
発病株率(%)	64.6	89.6	100	54.2	62.5	81.3
抵抗性程度	強	やや強	弱	強	強	やや強

*調査年次：平成18～19年

¹Σ(階級値×該当株数)/(最大階級値×調査株数)×100

2. 「空知台交6号」の特記すべき特徴

えそ斑点病及びつる割病（レース1, 2y）（以下、レース1, 2y）に対して強い抵抗性を有する。接ぎ木作業性が優れる。

3. 北海道で優良品種に採用しようとする理由

「空知台交6号」は、えそ斑点病に対しては「どうだい4号」と同様に質的抵抗性を有し、レース1, 2yに対しては「どうだい4号」より強い量的抵抗性を有するため、土壌病害抵抗性台木としての汎用性が高い。また、幼苗期に徒長しづらい特性を有しているため「ダブルガード」、「ワンツーシャット」より接ぎ木作業を行いやすい。さらに、穂木品種の収量・品質を損なわない優れた台木特性を有することから、えそ斑点病及びレース1, 2yが発生した圃場や発生の恐れがある圃場におけるメロンの安定生産に貢献することが期待できる。

4. 普及対象地域及び普及見込み面積

普及対象地域：全道のメロン栽培地域のうち、えそ斑点病、レース1, 2yの発生が確認された圃場及び発生の恐れがある圃場とする。

普及見込み面積：80ha

5. 保有種子量

「空知台交6号」	約 6,000粒
種子親「HM-5」	約 2,000粒
花粉親「HM-4」	約 2,000粒

6. 栽培上の留意点

- 1) レース1, 2yに対する抵抗性は「どうだい4号」より優るが、菌密度が高いと罹病する場合がある。従来 of 抵抗性台木でも発病する圃場では土壌還元消毒や輪作を行って菌密度を下げた後に「空知台交6号」を用いる。
- 2) 低温伸長性が「どうだい4号」よりやや劣るため、道北地域では無加温半促成作型の内、4月上～中旬定植の栽培を避ける。
- 3) 無加温半促成作型における成績であり、加温半促成作型、トンネル早熟作型及びハウス抑制作型については未検討である。また、蒸し込み等の特殊な栽培管理方法についても未検討である。
- 4) 接ぎ木を行った場合でも穂木に抵抗性が移行するわけではないため、穂木からの不定根の発生や接触伝染による罹病に注意する。